

「みんなだいじょうぶ？」のあたたかさ 1年生係決め

毎日、各教室に行き子どもたちの様子を観ることを続けています。すると学期が進むにつれて、子どもたちの成長が分かり、嬉しいことをたくさん見つけることができるようになります。文字がぐんと丁寧になった子、発表の声が大きくなった子、初めてのことや自分の苦手なことにも逃げなくなった子、友だちの輪が広がった子等々、数えればきりがありません。これも子どもたち自身の頑張りはもちろん、先生方の適切な支援や保護者の皆さんの支えがあつてのことと感じています。後、クラスや友だ

ちの雰囲気というのも大きく影響するものです。一人ひとりがクラスの創る当事者として「何ができるか」「いい雰囲気を創ろう」と考えながら、暮らすことがとても大事なことと先生方とは話し合っていますし、子どもたちも自分にできることを考えて行動していると思います。

昨日、1年生のクラスを覗くと子どもたちが黒板の前に集まり、3学期の係決めをしていました。1、2学期にやったことのない係活動に挑戦しようということで、





みんなで話し合い、ワイワイ言いながら決めていました。自分のなりたい係になれないといじけたり怒ったりすることもあるのが１年生です。先生は教室の一番後ろから、支援員の先生とその様子を観ています。「〇〇さん、い

い声かけするようになりましたね」などと言いながら微笑ましく、しかし注意深く子どもたちの言動を観察していました。

自分たちでほぼ決まりかけたときに何人かの子が「みんな、これでだいじょうぶ」と声をかけています。それに対して「だいじょうぶ」と返事をしている子もいれば、２学期と同じ係になった子はいないか、困った顔をしている子はいないか友だちの様子に目をやっている子もいます。

先生が司会して係決めをすると、きっと時間はもっと短縮できるだろうし、トラブルになりそうな時は先回りして手を打つこともできるでしょう。それが悪い方法とは思いません。しかし、子どもたちの表情からは、自分たちの力で決めることができた達成感や友だちを思いやる気持ち、トラブルになりそうな時はどういう解決方法があるかなど、これまで学んできたことをフルに使って１時間を過ごしていたように思いました。

児童会が２学期から取り組んでいる『ふわふわことばボード』にたくさんの子が「だいじょうぶと言ってもらった時」と書いていますが、１年生の子たちの「みんなだいじょうぶ」という声かけを聞いて、なんて安心できる言葉なんだろうと改めて感じました。